

► コンソール／ビューア／
ファイリング機能一体化端末
「REGIUS Unitea」

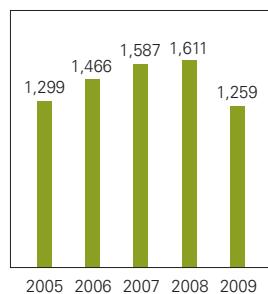


► デジタルX線画像読取装置
「REGIUS MODEL 110」

3月31日に終了した各会計年度

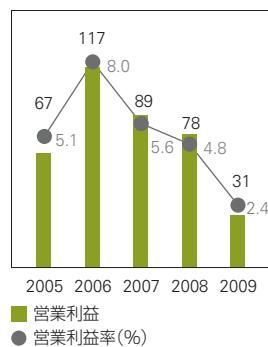
売上高

(億円)



営業利益／営業利益率

(億円)



► デジタルX線画像読取装置
「PLAUDR C30」

メディカル& グラフィック事業

► デジタル色校正システム



► オンデマンド印刷システム
「Pagemaster Pro 6500N」



2009年3月期のレビュー

● 医療・ヘルスケア分野では、小規模医療施設へのデジタル機器の販売に注力しました。

同分野では、定評のある放射線画像処理技術とその実績を活かし、高精細のデジタルX線画像読取装置を核とした画像診断システムを病院・診療所に提供しています。診療所などの小規模な医療施設におけるIT化ニーズに対応した小型CR(Computed Radiography)機「REGIUS(レジウス)MODEL 110」及び周辺システムの販売拡大に国内外の市場で注力した結果、国内外ともに販売台数は前期を上回りました。

印刷分野では、オンデマンド印刷機「Pagemaster Pro(ページマスター)6500」などデジタル機器の販売拡大に取り組みましたが、景気後退の影響によりお客様サイドでの新規設備の凍結や延期の傾向が強くなり、販売は減少しました。

両分野とも、デジタル化に伴いフィルム製品に対する需要縮小が世界規模で顕著となり、フィルムの販売数量は大きく減りました。さらに、第3四半期に入って急速に進行した円高も、売上減少の要因となり、当事業の外部顧客に対する売上高は1,259億円(前期比22%減)となりました。営業利益は、経費削減の取り組みを徹底しましたが、フィルム販売数量の減少による粗利減少などの影響を受け、31億円(前期比60%減)となりました。

今後の事業展開について

● 画像診断システムの拡販によりサービス事業の拡大に繋げ、医療・ヘルスケア事業の拡大を目指します。また、2008年10月に発売した、撮影後約5秒で高画質診断画像の表示を可能とするDR(Digital Radiography)機「PLAUDR(プラウディア)」シリーズを今後の戦略分野として注力していきます。

なお、デジタル化の進展によって需要縮小が続いている印刷用フィルム製品については、事業の終了を決断し、2009年3月に生産を終了しました。販売についても順次終了する予定です。